

安全データシート

版番号 6.3
改訂日 29. 10. 2023
印刷日 11. 05. 2024

1. 化学品及び会社情報

1.1 製品識別名

製品名 : Kerosene

カタログ番号 : 17-0090

ブランド : Katayama

CAS番号 : 8008-20-6

1.2 他の特定手段

データなし

1.3 推奨用途及び使用上の制限

特定用途 : 研究開発での使用のみ。薬事、家庭用その他の用途には用いない。

1.4 安全データシート作成者の詳細

会社名 : Sigma-Aldrich Japan G.K.
1-8-1 Arco Tower, Shimomeguro, Meguro-ku
TOKYO 153-8927
JAPAN

東京都目黒区下目黒 1-8-1 アルコタワー

担当部門：ライフサイエンス

レギュラトリーアフェアーズ

電話番号 : +81 (03) 6758-3625

FAX: : +81 (03) 6756-8300

1.5 緊急連絡電話番号

緊急連絡先TEL: : +81 (0)3 4520 9637 (CHEMTREC)

2. 危険有害性の要約

2.1 GHS分類

引火性液体 (区分4), H227

皮膚腐食性 / 刺激性 (区分2), H315

特定標的臓器毒性 (単回ばく露) (区分3), 麻酔作用, H336

誤えん有害性 (区分1), H304

水生環境有害性 長期 (慢性) (区分2), H411

このセクションで言及された H-ステートメントの全文は、セクション 16 を参照する。

2.2 注意書きも含むGHSラベル要素 絵表示



注意喚起語	危険
危険有害性情報	
H227	可燃性液体。
H304	飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ。
H315	皮膚刺激。
H336	眠気又はめまいのおそれ。
H411	長期継続的影響によって水生生物に毒性。
注意書き	
安全対策	
P210	熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
P261	ミスト/蒸気の吸入を避けること。
P264	取扱い後は皮膚をよく洗うこと。
P271	屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
P273	環境への放出を避けること。
P280	保護手袋/保護眼鏡/保護面を着用すること。
応急措置	
P301 + P310	飲み込んだ場合: 直ちに医師に連絡すること。
P302 + P352	皮膚に付着した場合: 多量の水で洗うこと。
P304 + P340 + P312	吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪いときは医師に連絡すること。
P331	無理に吐かせないこと。
P332 + P313	皮膚刺激が生じた場合: 医師の診察/手当てを受けること。
P370 + P378	火災の場合: 消火するために乾燥砂、粉末消火剤(ドライケミカル)又は耐アルコール性フォームを使用すること。
P391	漏出物を回収すること。
保管	
P403	換気の良い場所で保管すること。
P403 + P233	換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
P405	施錠して保管すること。
廃棄	
P501	内容物/容器を承認された処理施設に廃棄すること。

2.3 他の危険有害性 - なし

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	: 化学物質
CAS番号	: 8008-20-6
EC番号	: 232-366-4
化審法官報公示番号	: -
安衛法官報公示番号	: -

危険有害成分

Katayama- 17-0090

ページ 2 の 10

The life science business of Merck operates as MilliporeSigma in the US and Canada

MERCK

化学名	分類	含有量
ケロシン		
	Flam. Liq. 4; Skin Corr./Irrit. 2; STOT SE 3; Asp. Tox. 1; Aquatic Chronic 2; H227, H315, H336, H304, H411	<= 100 %

このセクションで言及された H-ステートメントの全文は、セクション 16 を参照する。

4. 応急措置

4.1 必要な応急手当

一般的アドバイス

この安全データシートを担当医に見せる。

吸入した場合

吸入後は新鮮な空気を吸うこと。ただちに医師の診察を受けること。

皮膚に付着した場合

皮膚に接触した場合: すべての汚染された衣類を直ちに脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。

眼に入った場合

眼に触れた後は多量の水ですすぐこと。コンタクトレンズをはずす。

飲み込んだ場合

飲み込んだ後の嘔吐には対応が必要。誤嚥の危険。気道の開放状態を保つこと。嘔吐物の誤嚥後は呼吸不全のおそれ。直ちに医師を呼ぶ。

4.2 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

もっとも重要な既知の徴候と症状は、ラベル表示(項目2.2を参照)および/または項目11に記載されている

4.3 緊急治療及び必要とされる特別処置の指示

データなし

5. 火災時の措置

5.1 消火剤

適切な消火剤

泡 二酸化炭素 (CO2) 粉末

使ってはならない消火剤

本物質/混合物に対する消火剤の制限なし

5.2 特有の危険有害性

分解生成物の本質は不明である。

可燃性。

蒸気は空気より重く、床に沿って広がる可能性がある。

高熱で空気と反応して爆発性混合物を生じる

火災時に有害な燃焼ガスや蒸気を生じるおそれあり。

5.3 消防士へのアドバイス

自給式呼吸器がある場合のみ危険区域に留まってもよい。安全なゾーンまで離れるか適切な保護衣を着用して、皮膚に触れないようにすること。

5.4 詳細情報

容器を危険ゾーンから移動させて水で冷やすこと。消火水が、地上水または地下水のシステムを汚染しないようにする。

6. 漏出時の措置

6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

救急隊員以外への助言: 蒸気、エアゾールを吸入してはならない。触れないようにすること。十分な換気を確保する。熱や発火源から遠ざける。危険なエリアから避難し、緊急時手順に従い、専門家に相談のこと
個人保護については項目 8 を参照する。

6.2 環境に対する注意事項

物質が排水施設に流れ込まないようにする。

6.3 封じ込め及び浄化の方法及び機材

排水溝に蓋をすること。こぼれたら集めて結合させ、ポンプですくい取る。物質の制限があれば順守のこと (セクション 7、10 参照) 液体吸収剤 (例. Chemisorb®) で処置すること。正しく廃棄すること。関係エリアを清掃のこと。

6.4 参照すべき他の項目

廃棄はセクション 13 を参照。

7. 取扱い及び保管上の注意

7.1 安全な取扱いのための予防措置

安全取扱注意事項

換気フードの下で作業すること。吸い込まないこと。蒸気やエアロゾルが生じないようにすること。

火災及び爆発の予防

炎、熱および発火源から遠ざける。静電気放電に対する予防措置を講ずること。

衛生対策

汚した衣類はただちに替えること。予防的な皮膚保護を講ずること。本物質を取り扱った後は手と顔を洗うこと。

注意事項は項目 2.2 を参照。

7.2 配合禁忌等を踏まえた保管条件

保管条件

容器を密閉し、乾燥した換気の良い場所に保管する。熱や発火源から遠ざける。

保管クラス

保管クラス (ドイツ) (TRGS 510): 3: 可燃性液体

7.3 特定の最終用途

項目 1.2 に記載されている用途以外には、その他の特定の用途が定められていない

8.ばく露防止及び保護措置

8.1 管理パラメータ

コンポーネント別作業環境測定パラメータ

化学名	CAS番号	価値	管理パラメータ	出典
ケロシン	8008-20-6	TWA	200 mg/m3	米国。ACGIH限界閾値（TLV）
	備考	ヒト関連性は不明な動物発がん性物質 皮膚吸収の危険性		

8.2 曝露防止

適切な技術的管理

汚した衣類はただちに替えること。予防的な皮膚保護を講じること。本物質を取り扱った後は手と顔を洗うこと。

保護具

眼 / 顔面の保護

NIOSH（US）またはEN 166（EU）などの適切な政府機関の規格で試験され、認められた眼の保護具を使用する。保護眼鏡

皮膚及び身体の保護具

要

身体の保護

保護衣

呼吸用保護具

気化ガス/エアロゾル発生時に必要

次の規格に準拠しているフィルター式呼吸器保護具を推奨します。DIN EN 143、DIN 14387および使用済み呼吸器保護システムに関連する他の付属規格。

環境暴露の制御

物質が排水施設に流れ込まないようにする。

9. 物理的及び化学的性質

9.1 基礎物理および化学特性の情報

- | | |
|------------------------|--|
| a) 物理状態 | 液体, 透明 |
| b) 色 | 無色 |
| c) 臭い | データなし |
| d) 融点 / 凝固点 | データなし |
| e) 沸点, 初留点及び沸騰範囲 | 175 - 325 °C at 1,013 hPa |
| f) 可燃性（固体、気体） | データなし |
| g) 爆発下限界及び爆発上限界 / 可燃限界 | 爆発範囲の上限: 5 % (V)
爆発範囲の下限: 0.7 % (V) |

h) 引火点	82 °C - 密閉式引火点試験
i) 自然発火温度	データなし
j) 分解温度	データなし
k) pH	データなし
l) 粘度	動粘度 (動粘性率): データなし 粘度(粘性率): データなし
m) 水溶性	データなし
n) n-オクタノール / 水分 配係数 (log 値)	データなし
o) 蒸気圧	0.31 hPa at 20 °C
p) 密度	0.8 gPcm3 at 25 °C - lit.
比重	データなし
q) 相対ガス密度	データなし
r) 粒子特性	データなし
s) 爆発特性	データなし
t) 酸化特性	なし

9.2 その他の安全情報

表面張力	32 mN/m at 20 °C
------	------------------

10. 安定性及び反応性

10.1 反応性

高熱で空気と反応して爆発性混合物を生じる
引火点より下のおよそ15ケルビンからの範囲は危険とみなされている。

10.2 化学的安定性

標準的な大気条件(室温)で化学的に安定。

10.3 危険有害反応可能性

データなし

10.4 避けるべき条件

強力な熱

10.5 混触危険物質

強酸化剤, 強塩基類, 強酸, アミン

10.6 危険有害な分解生成物

火災の場合:項目5を参照

11. 有害性情報

11.1 毒性情報

急性毒性

LD50 経口 - ウサギ - 2,835 mg/kg

備考: 行動: 筋脱力

肺、胸郭、または呼吸機能: 呼吸刺激

内分泌系: 低血糖

吸入: データなし

経皮: データなし

皮膚腐食性 / 刺激性

皮膚 - ウサギ

結果: 皮膚に刺激性。 - 24 h

(ドレイズ試験)

眼に対する重篤な損傷性 / 眼刺激性

データなし

呼吸器感作性又は皮膚感作性

データなし

生殖細胞変異原性

データなし

発がん性

データなし

生殖毒性

データなし

特定標的臓器毒性 (単回ばく露)

吸入 - 眠気又はめまいのおそれ。 - 中枢神経系

特定標的臓器毒性 (反復ばく露)

データなし

誤えん有害性

飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ。

11.2 追加情報

RTECS: OA5500000

化学的、物理的および毒性学的性質の研究は不十分と考えられる。

12. 環境影響情報

12.1 生態毒性

ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性(慢性毒性) 最大無影響濃度 - Daphnia (ミジンコ属) - 0.48 mg/l - 21 d

12.2 残留性・分解性

データなし

12.3 生体蓄積性

データなし

12.4 土壤中の移動性

データなし

12.5 PBT および vPvB の評価結果

化学物質安全性評価が必要ではない/行っていないため、PBT/vPvB評価データはない。

12.6 内分泌かく乱性

データなし

12.7 他の有害影響

データなし

オゾン層への有害性

非該当

13. 廃棄上の注意

13.1 廃棄物処理方法

製品

内容及び容器は、関連法規及び各自治体の条例等の規制に従い、産業廃棄物として適切に処理すること。

14. 輸送上の注意

14.1 国連番号

ADR/RID（陸上規制）：1223 IMDG（海上規制）：1223

IATA-DGR（航空規制）：1223

14.2 品名（国連輸送名）

ADR/RID（陸上規制）： KEROSENE

IMDG（海上規制）： KEROSENE

IATA-DGR（航空規制）： Kerosene

14.3 輸送危険有害性クラス

ADR/RID（陸上規制）：3 IMDG（海上規制）：3

IATA-DGR（航空規制）：3

14.4 容器等級

ADR/RID（陸上規制）：III IMDG（海上規制）：III

IATA-DGR（航空規制）：III

14.5 環境危険有害性

ADR/RID： 該当

IMDG 海洋汚染物質(該当・非該当):
該当

IATA-DGR（航空規制）：非該当

14.6 特別の安全対策

なし

14.7 混触危険物質

強酸化剤, 強塩基類, 強酸, アミン

15. 適用法令

15.1 物質または混合物に固有の安全、健康および環境に関する規則/法律

国内適用法令

消防法: 第4類:引火性液体, 第二石油類, 危険等級III, 非水溶性液体

毒物及び劇物取締法: 非該当

労働安全衛生法

特定化学物質障害予防規則: 非該当

規則:

有機溶剤中毒予防規則: 非該当

規則:

名称等を通知すべき危険物及び有害物

法第 57 条の 2 (施行令別表第 9)

化学名	含有量 (%)	備考
灯油	>=90 - <=100	-

名称等を表示すべき危険物及び有害物

法第 57 条 (施行令第 18 条)

化学名	備考
灯油	-

化学物質排出把握管理促進法: 非該当

理促進法:

16. その他の情報

-

セクション 2 および 3 において言及された H-ステートメントの全文。

H227 可燃性液体。

H304 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ。

H315 皮膚刺激。

H336 眠気又はめまいのおそれ。

H411 長期継続的影響によって水生生物に毒性。

詳細情報

本SDSは自社SDSデータベース並びに各種の出版されている情報、文献などに基づいて作成されていますが、すべての情報を網羅しているわけではありません。従って、本情報は化学物質の安全性の指

標としてのみご使用ください。また、本SDSの記載内容は情報提供を目的としており、当該化学物質の取り扱い上のいかなる保証をなすものではありません。

Copyright 2020 Sigma-Aldrich Co. LLC. により、社内限定使用以外の本書の複写を禁じています。弊社ブランド移行期のため、この文書のヘッダーやフッターのブランド名はご購入製品のブランド名と合わない場合があります。しかし、文書中の製品に関する情報は変わらず、ご注文の製品に合致します。詳細は、こちらまでお問合せください。mlsbranding@sial.com.